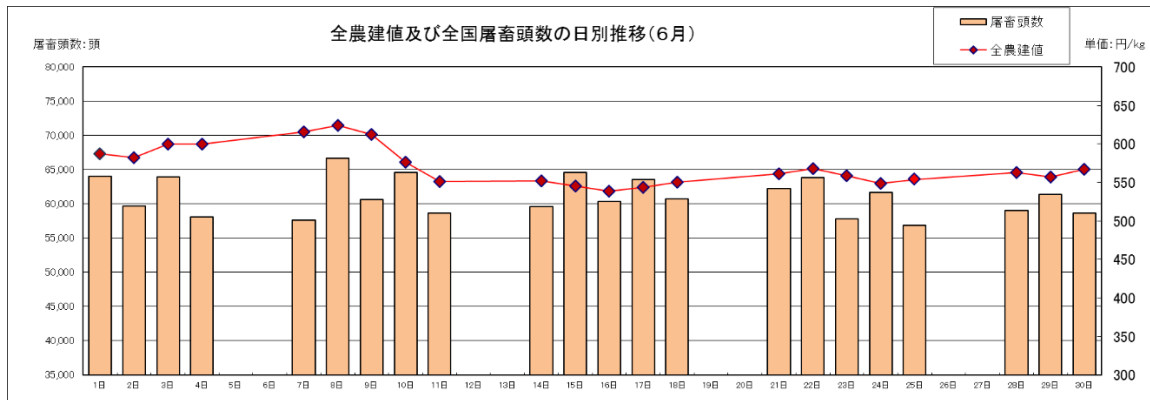


肉豚インフォメーション（6月）

【全農建値】

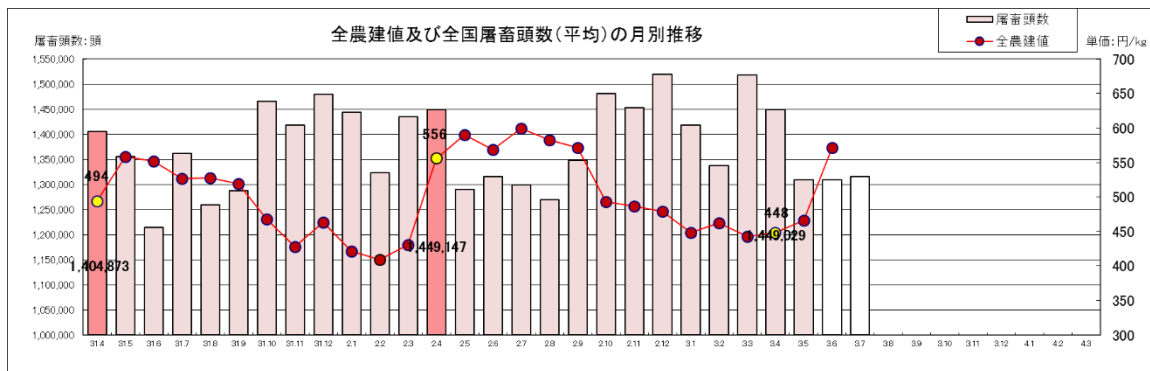
2021 年 6 月（税抜）	2020 年 6 月（税抜）
571 円/kg（2 円高）	569 円/kg

6 月は出荷頭数の減少により、相場は 5 月末から 100 円以上上げる展開となり、中旬にかけて中だるみが見られたものの、概ね 560 円前後の高値圏で推移した。荷動きは決して良くないものの輸入豚肉の国際相場高と飼料価格高騰による先高感がみられた。



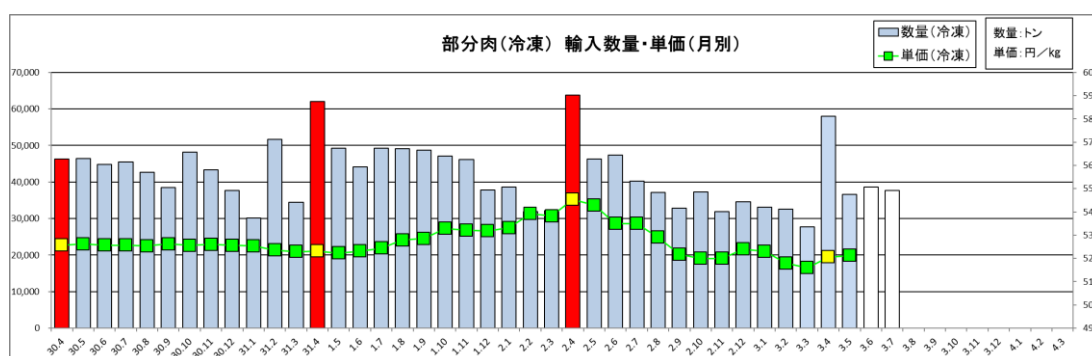
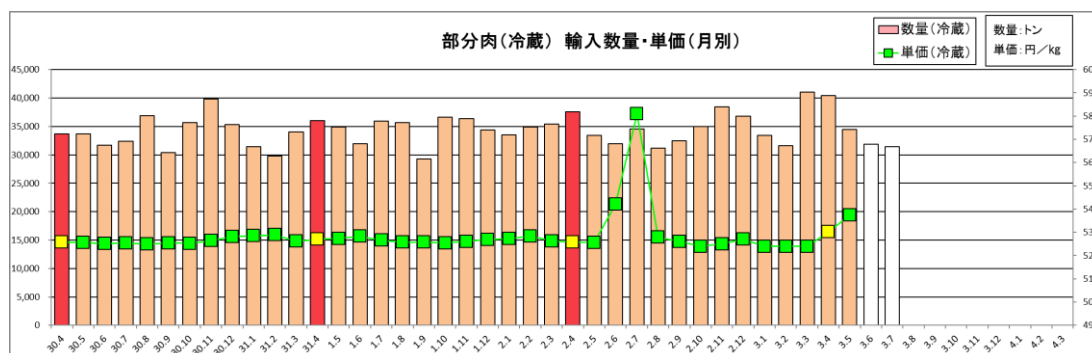
7 月以降の動向

7 月の出荷頭数は、やや前年同月を下回ると予測されている。



冷蔵品輸入量は、6 月は前年同月並みとなる一方、7 月は北米における現地価格の高騰等により前年同月をかなり下回ると予測する。なお、3 カ月平均では、前年同期をわずかに下回ると予測する。

冷凍品輸入量は、アジア諸国を中心とした買い付けや北米及び EU の国内需要の増加による現地価格の高騰等により、6 月は大幅に、7 月はかなりの程度、いずれも前年同月を下回ると予測する。なお、3 カ月平均でも、前年同期をかなり大きく下回ると予測する。
(A L I C 豚肉の需給予測について 6 月 28 日)



6月20日に3回目の緊急事態宣言が解除されたものの、新規感染者数のリバウンドの兆候が見られるなど、4回目の緊急事態宣言の可能性も高まってきている。そのような中、消費にも変化が見られ、昨年は家庭で幅広く使える豚肉需要が高まったが、長引くコロナ疲れにより簡便調理品や惣菜品の需要が高まっている。

一方で、世界的な食肉需要の拡大や通関遅れによる品薄感により輸入豚肉の高騰が続いている。アメリカ産豚肉の先物価格が投機マネーの流入もあり高騰するなど、日本向けの輸入価格にも影響を及ぼしている。そのため、国産豚肉相場の押し上げ要因として期待できるが、中国の豚肉相場が過剰供給により急落していることから今後の動向に注意する必要がある。

また夏に向けた在庫確保の動きも見られることから継続して高値で推移すると思われる。

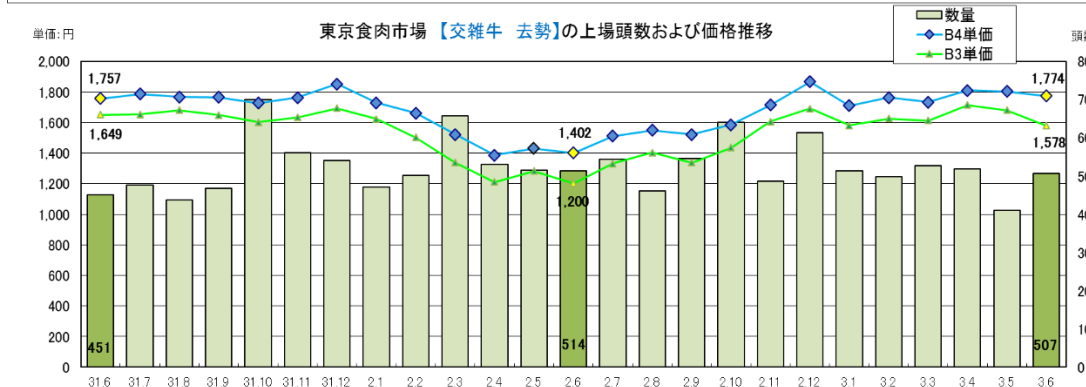
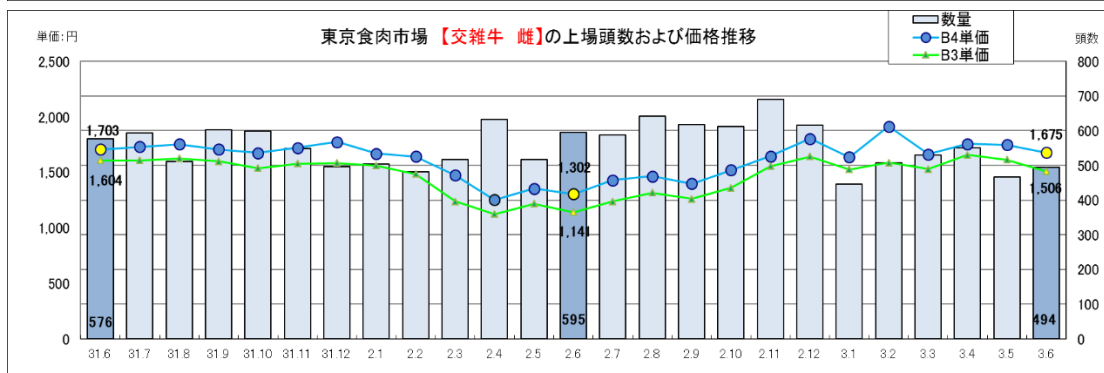
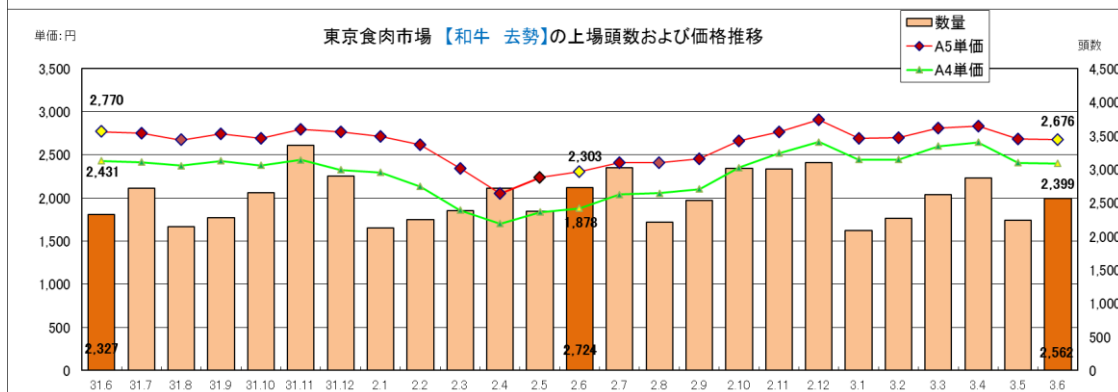
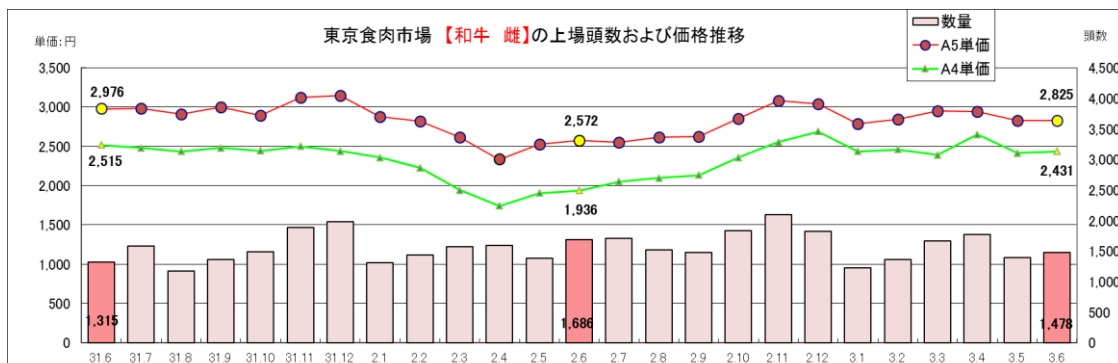
7月の相場は強もちあいで推移する見通し。

全農建値(税抜) 予測レンジは560円～630円とする。

肉牛インフォメーション（6月）

● 6月の動向

枝肉相場は、4～5月の高値疲れから和牛、交雑牛ともに弱含みで推移した。月中旬ごろからは、緊急事態宣言明け後の期待感や、上場頭数が少ないことなどから下げ止まる展開となった。



● 7月の動向予測

まん防の延長が検討され、開催予定となっているオリンピック向けの需要は鈍いと予想。しかし、相場は共励会が多い月であることや、月2週目から後半にかけての旧盆向け手当てが始まることから、強含みで展開すると予想。

7月相場は「強含み」の展開と予想。

和牛去勢 A5 等級 2700 円（税込み）

A4 等級 2450 円（税込み）

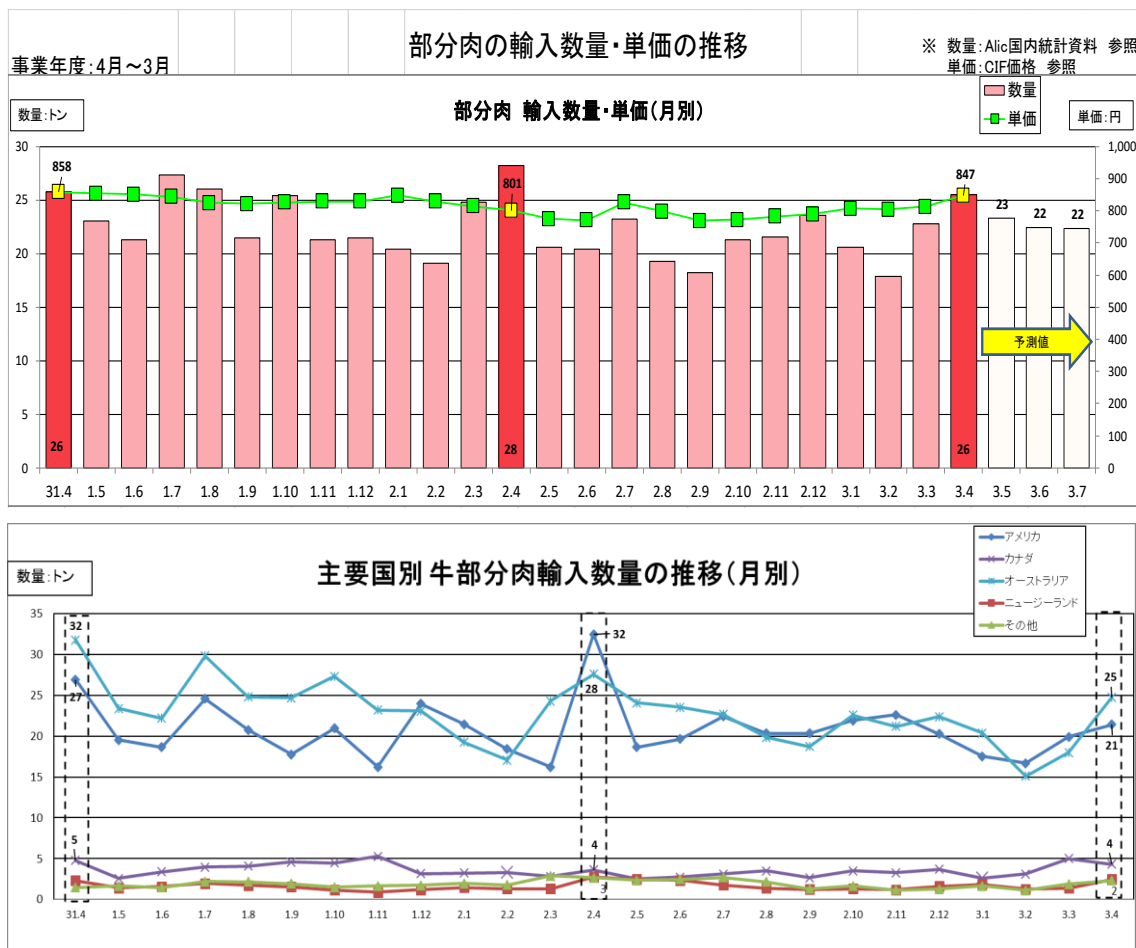
交雑去勢 B4 等級 1800 円（税込み）

B3 等級 1650 円（税込み）

● 輸入牛肉

牛肉（部分肉）輸入量は、前年の輸入量が北米現地工場の稼働停止により少なかったことから、6月は前年同月を上回ると予測。一方、7月は豪州及び米国における現地価格の高騰等により、前年同月を下回ると予測。

（A L I C 牛肉の需給予測について 6月28日）



● 消費動向

オリンピックのメダル獲得による祝賀需要への期待感から、ホテルなどからはヒレやロースの注文が徐々に出ている。小売りではバラ系の引き合いも強く、後半にかけては中元や旧盆向け手当ても始まることから、荷動きには期待感が持たれている。

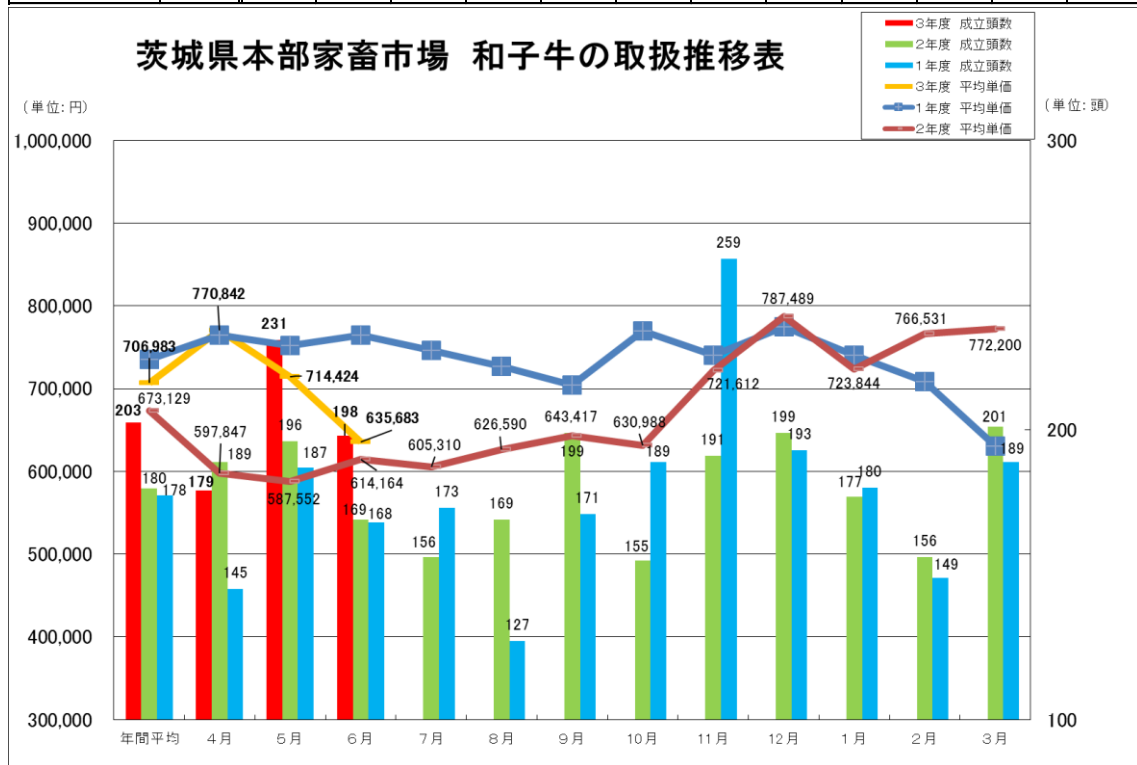
●全農茨城県本部家畜市場動向

全農茨城県本部家畜市場における素牛平均価格（6月税込）は、黒毛和種の雌は570,768円で前月比▲39,003と下落、去勢は692,025円で前月比▲87,991円と下落した。上場頭数（成立）は198頭で前月比▲33頭となった。次回上場頭数は150頭を予定。

全農茨城県本部家畜市場実績（和牛子牛）

（税込）

	年間平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年度 平均単価	735,223	764,223	752,015	764,621	746,382	726,806	704,141	769,994	740,279	774,343	740,581	708,666	630,626
去勢	791,182	804,333	799,867	842,908	797,996	801,132	732,566	818,370	797,145	846,297	814,402	757,106	682,060
雌	659,697	707,400	675,585	684,447	680,659	631,348	657,786	702,635	661,359	682,919	639,563	633,657	559,009
2年度 平均単価	673,129	597,847	587,552	614,164	605,310	626,590	643,417	630,988	721,612	787,489	723,844	766,531	772,200
去勢	734,165	649,837	642,142	674,214	650,911	694,492	709,130	714,912	794,798	850,944	799,476	794,563	834,562
雌	598,275	513,364	510,047	545,753	561,990	550,285	562,199	552,310	635,950	707,450	630,022	724,591	685,339
3年度 平均単価	706,983	770,842	714,424	635,683									
去勢	769,052	835,115	780,016	692,025									
雌	625,117	694,811	609,771	570,768									
1年度 成立頭数	178	145	187	168	173	127	171	189	259	193	180	149	189
2年度 成立頭数	180	189	196	169	156	169	199	155	191	199	177	156	201
3年度 成立頭数	203	179	231	198									



食肉インフォメーション（6月）

食品スーパー3団体が公表したスーパーマーケット販売統計調査によると、5月の食品合計の売上高は前年同月比2.8%減、畜産物は前年同月比5.7%減となり、4か月連続で前年を下回った。前年の緊急事態宣言下で売れた反動減が大きかった。今後は、ワクチン接種の拡大で消費は今後、外食や行楽に向かうことが予想されるため、巣ごもり消費で高水準だった客単価を維持する対策を取る動きがみられる。一方、日本フードサービス協会が発表した5月の外食売上高は前年同月比19.8%増と、2ヶ月連続のプラスとなった。しかしコロナ禍前の2019年5月比では19.8%減。緊急事態宣言が6月20日で解除されたものの、まん延防止等重点措置下における飲食店の時短営業や酒類提供の時間制限などの対策により、当初の期待とは裏腹に末端需要の回復は見られなかった。

○牛肉

6月の末端需要は引き続き低迷しており、5月より悪化の傾向がみられた。外食需要やホテル関係の宴会需要が打撃を受けるなか、出荷頭数が少なかったため高値を維持する形となった。7月は例年、月後半ごろまでは梅雨の時期が続いて需要が低迷する時期ではあるものの、東京オリンピック・パラリンピックの関係で変則的な4連休となるため、流通各社も、前年並みの販売成績を上げるチャンスとして、産地フェアなど何らかの販促を仕掛ける動きも予想される。

○豚肉

農水省公表による7月の出荷頭数予測は、前年同月比3%減と依然少ない見通しとなっている。輸入は飼料の高騰や中国による買い付けの増加で、依然減少傾向にある。肉食需要などある程度の底堅い需要も予想される中、加工原料では輸入物に国産で手当てする動きもあるため、相場も堅調に推移すると予想される。全農いばらき食肉センターでは豚モモ肉の在庫が逼迫するなど、引き合いが出ている。

○業態別概況

表：全農いばらき食肉センター 業態別取引先実績（令和3年5月期）

年度	J A	どきどき	給食	仲卸	食肉 専門店	量販店	飲食店	合計
令和2年5月	12,840	13,715	298	31,752	14,396	10,607	3,128	87,736
令和3年5月	11,129	14,559	8,638	25,567	9,779	12,770	5,008	87,450
増減	-1,711	-156	8,340	-6,185	-4,617	2,163	1,880	-286
対比	87%	99%	2,899%	81%	68%	120%	160%	100%

- ・令和2年5月の給食は、学校の一斉休校の影響で3月、4月に続き取扱が大幅に減退していた。
- ・緊急事態宣言の解除を受けて飲食店需要は前年より動きがあるものの、令和元年度5月比は78.8%（飲食店実績：6,355千円）と、依然厳しい状況が続いている。